

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/VKomSkD2lyA>

MACF 礼拝説教要旨

2020.12.06

「恵まれた母マリア」

ルカによる福音書 1 章

1:26 六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。

1:27 ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。

1:28 天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」

1:29 マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。

1:30 すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。

1:31 あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。

1:32 その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。

1:33 彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」

1:34 マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」

1:35 天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。

1:36 あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不

妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。

1:37 神にできないことは何一つない。」

1:38 マリアは言った。「わたしは主のはしのためです。

お言葉どおり、この身に成りますように。」

そこで、天使は去って行った。

+++++

今日はマリアのことを少し考えて見たいと思います。

1) おめでとう恵まれた方

天使は若いマリアに向かって「おめでとう、恵まれた方。

主があなたと共におられる。」という言葉が届きます。確かにイエス様のお母様としての立場は、素晴らしいことです。

栄誉あることだと思います。

しかし、マリアの生涯が人間的に見て、一般的な「めぐみ」の溢れる一生だったのかというと、そういうふうには思えません。

「イエス様の母」という一面は素晴らしい、恵みだと感じます。

しかし、生活は日常であり、継続であり、生きている限り関係やわだかまりがついて回ります。

2) マリアとイエスの関係について

「恵まれた方」と呼ばれたにしては、かなり重い出来事が続きました。

*イエス様の誕生の場所

イエス様が寝かされた場所は「飼葉桶」とすれば出産の場所も決して衛生的なところではなかったでしょう。

*ゲスト

まず、イエス様が生まれた時、最初のお客様は社会的にはあまり尊敬されていない「羊飼いたち」、その後は、異邦人の博士たち。

*エジプトへの逃避

外国からの博士たちが去ってからすぐに王ヘロデはその地域の子供達を皆殺しにするという残酷は行為を実行します。

その直前にヨセフは夢を見て、エジプトへの逃避を大急ぎで促されます。

そして、ヘロデが死ぬまで、エジプトでいわゆる難民としての生活をする事になります。

*シメオンの予告

ルカによる福音書 2 章にはこういう言葉が書かれています。

2:28 シメオンは幼子を腕に抱き、神をたたえて言った。

2:29 「主よ、今こそあなたは、お言葉どおりこの僕を安らかに去らせてくださいます。

2:30 わたしはこの目であなたの救いを見たからです。

2:31 これは万民のために整えてくださった救いで、

2:32 異邦人を照らす啓示の光、あなたの民イスラエルの誉れです。」

2:33 父と母は、幼子についてこのように言われたことに驚いていた。

2:34 シメオンは彼らを祝福し、母親のマリアに言った。

「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。

2:35 …あなた自身も剣で心を刺し貫かれます…多くの人の心にある思いがあらわにされるためです。」

*カナの婚礼

とまどい・信頼

*十字架

ヨハネによる福音書 19 章

19:25 イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。

こういう出来事を考えているとマリアの生涯は必ずしも「楽ちんな、楽しいもの」とは縁遠いものだったと断定できます。

伝説ではヨセフは早く亡くなったと言われています。

3) 「恵まれた方」

こんなに過酷で、厳しい生き方をもたらしたイエス様と関わる生活の中で何が、あるいは、どこか「恵まれた」という出来事だったのでしょうか。

実は、嬉しいことも、辛いことも、すべてを神のめぐみの出来事として受け止めることをマリアは学びました。

マリアは最初の出来事の中での応答に心を向けましょう。

「1:38 マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」

神のお考えが実行に移された時、私にとっては不都合があるかもしれない、不便になるかもしれない、

それでも、主の想いだけが最終的には恵みの出来事として歴史のなかに記憶され、記録されていくのだということです。

実は、マリアは希望をもって信仰の仲間たちと一緒に集まり、指導的な役割をはたしました。

イエス様の死と復活の後も、信仰者としての意識をもって生きることがわかります。使徒言行録の記事です。

1:13 彼らは都に入ると、泊まっていた家の上の部屋に上がった。それは、ペトロ、ヨハネ、ヤコブ、アンデレ、フィリポ、トマス、バルトロマイ、マタイ、アルファイの子ヤコブ、熱心党のシモン、ヤコブの子ユダであった。

1:14 彼らは皆、婦人たちやイエスの母マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた。

1:15 そのころ、ペトロは兄弟たちの中に立って言った。百二十人ほどの人々が一つになっていた。

4) 恵まれた人は、あなた

イエス様が来てくださって死なれ、罪を赦してくださったということは、私たちがまたマリアのように「恵まれた者の群れ」の一員です。

マリアにとってイエス様の誕生はめぐみなのですが、その生涯は苦悩と苦難の多いものだったと思います。

でも、神様は「恵まれた方」と呼んでいるのです。

苦難も含めて、恵まれた方なのです。

それは私たちも同様かもしれません。

苦難も含めて「神の恵みに取り囲まれている」という見方ができると少しイライラが減るかもしれません。

もう少し、耐えることの喜びや、イエス様が栄誉賞賛を受けること、他の人が自分の存在と少しの支援によって栄誉を受けることなどが、自分自身の喜びに通じていることがわかるようになるかもしれません。

【祈り】

主よ、クリスマスの時期に、あなたの恵みが一時的ではなく人生全てにかかわる恵みであることを教えてくださってありがとうございます。

嬉しいことも、辛いことも、恵みとして受け止めることができますように、イエス様の御名によって アーメン